

昭和24年度

事業報告書

鹿兒島縣水産試験場

鹿兒島大學附屬圖書館

目 次

漁 撈 部

ま	えがき	(本 場)	(1)
一	鯉竿釣漁業試験		(1)
二	旗魚延縄漁業試験		(8)
三	イワシ産卵調査		(6)
四	鯉竿釣共同試験調査		(18)
五	漁獲高調査表		(19)
六	鯉利網漁業試験	(串木野分場)	(22)
七	鯉利網漁業経営に就いて		(49)
八	鱈一本釣及延縄漁業試験	(西之表分場)	(54)

製 造 部

一	籐詰製造試験	(本 場)	(62)
二	鯉節依託製造		(64)
三	鯉立塩漬製造試験		(65)

養 殖 部

一	鹿兒島縣甌島海鼠池産アコヤガイ 利用に関する研究	(本 場)	(66)
	第一部 甌島海鼠池観測		(66)
	第二部 アコヤガイ棲息地としての海鼠池湖沼要因		(83)
	第三部 海鼠池産アコヤガイ耳令査定		(88)
	第四部 海鼠池アコヤガイ資源		(95)
	第五部 移殖地甌島浦内湾の海洋観測		(97)
	第六部 アコヤガイ移殖地としての浦内湾の環境要因について		(103)
	第七部 第二回浦内湾観測		(106)
	第八部 移 殖		(107)
二	浅草海苔養殖試験		(116)
三	翅養殖試験		(125)
四	イワシ漁体調査		(127)

二 旗魚延縄漁業試験

趣旨

本県の最重要漁業である本漁業は、漁区拡張に伴つて漁船の大型建造は必然であるが、本年度は五島南西漁場で漁期が一般に早く餌料取^{エサトビ}の出現も一ヶ月早かった。

従来の調査試験では餌延縄漁業を実施する予定であつたが、資材難のため漁期を失して漁場の早期発見が目的を達し得ず、海況、漁況速報と漁夫の技術修得に重点を置いた。

方法

照洋丸を使用し、五島近海を重点に南西諸島附近の漁場を調査するため臨時漁夫10名を雇入れた。

乗組員

調査員外21名

試験調査期間

自10月16日 至1月31日

根拠地

鹿兒島港及び串木野港

操業海区

五島近海及び南西諸島附近

漁具の構造

(イ) 幹 縄	綿糸20番手8丈(1鉢分)	200尋
(ロ) 枝 縄	全 上 (1本分)	17"
(ハ) セキヤマ	麻 芯 2.5丈(1本分)	3"
(ニ) ワイヤー	鋼線25番線7本纏(1本分)	2½"
(ホ) 浮 縄	亜麻25番手8丈(1本分)	6"
(ヘ) 旗 竿	コサン竹切口根元一寸長2½尋(1鉢分)	1本
(ト) 浮 玉	硝子玉 直径 9寸(1鉢分)	1箇
(チ) 釣 鉤	3寸7分 (1鉢分)	4本

使用鉢数

79本

経過の概要

従来の報告書が焼失されているため、五島近海における本漁業試験は本船としては初めてであった。当業船は8月中旬より操業して好成績を収めた。

本調査は第1～5次航海を五島近海より七島近海で操業したが、五島近海は機船底曳網漁業と同一の漁場で、該船より操業中漁具を切断される事も暫々あつて、荒天による漁具の紛失も已むない事であり、該漁業との設定果が緊要である。

本年は例年にならぬ餌料取(ふぐ類)が多く、そうたがつをや鯖死餌は使用後一時間以内で皆無となつた事も少くない。

第4次航海は、男女群島附近で鯖を釣獲して活餌を使用したため成績がよかつた。しかし本船は舷側の横造、活魚槽との間隔等の関係位置からして活魚釣は非能率的である。又同漁場において烏賊を釣獲して餌料としたが一般に餌付は悪かつた。

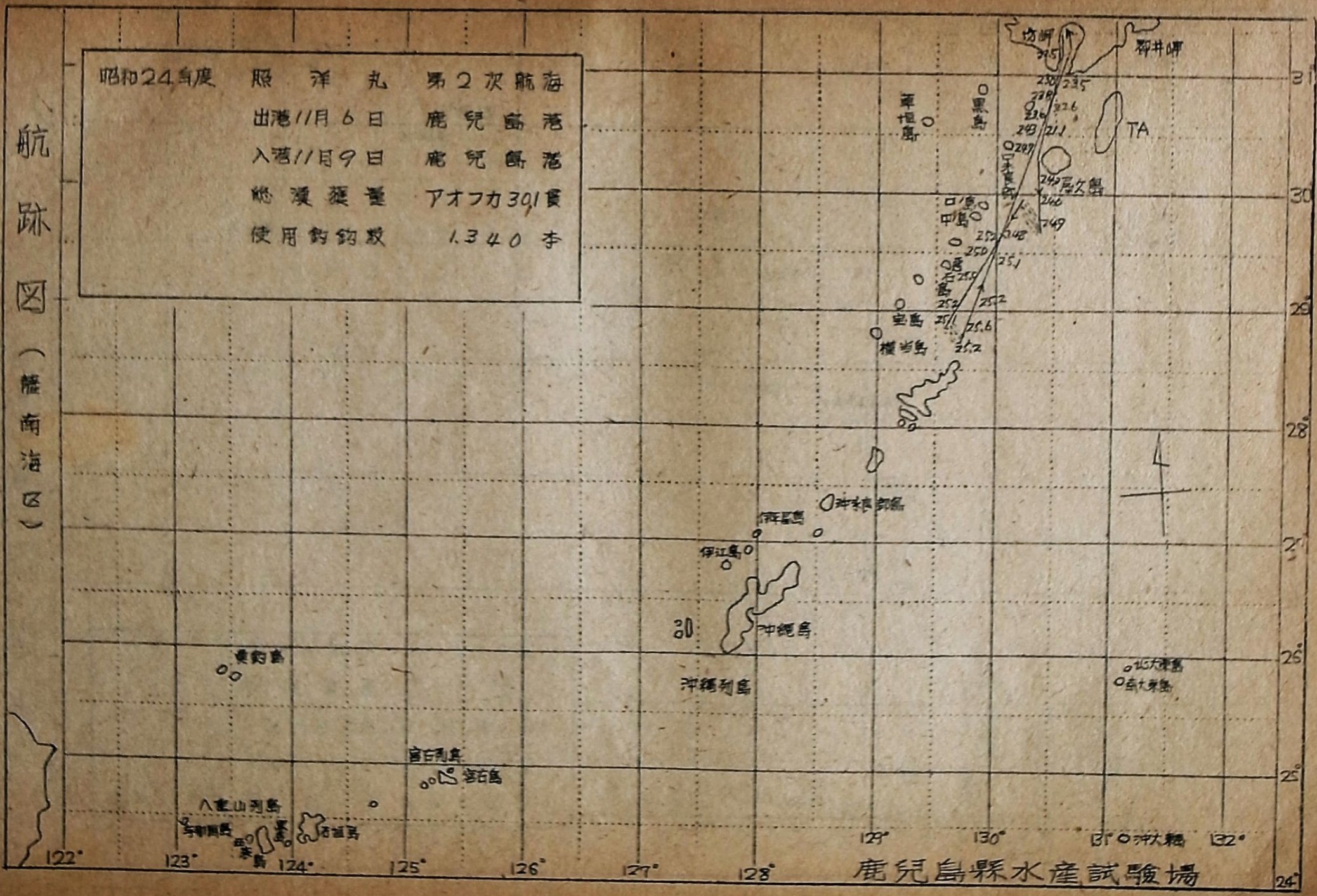
同漁場附近は鯖活餌が最も適していたが総括的に不漁に終つた。

第6次航海は1月2日先頭群島奥釣島附近を操業し、鯉漁場の探索を併せて調査した。餌料は鯖、短田鯉、まいわし等を使用したか一般に餌付は良好であつた。漁場が遠隔のため燃油の使用量が多かつた。同漁場には鯖類が豊富に居るから餌料の自給をなして実施すれば良好と認められた。

又、鯉の群が濃く、曳網による釣獲も見込があり、餌付概ね良好のため直ちに枕崎漁業無線局に漁況の速報をなし、当業船の早期出港を促進して1～3月の間例年にならぬ豊漁を収めた。

航跡図 (鹿南海区)

昭和24年度 照洋丸 第2次航海
 出港11月6日 鹿兒島港
 入港11月9日 鹿兒島港
 総獲獲量 アオカ391貫
 使用釣鉤数 1,340 本



(11)

鹿兒島縣水産試験場

航跡圖 (鹿南海区)

昭和24年度 鹿 洋 九 第5次航跡
 出港12月19日 鹿兒島港
 入港12月27日 鹿兒島港
 総獲量 鮫 40貫
 使用釣钩数 704本

